

【科目名】運動障害性構音障害		【担当教員】松田崇、藤間紀明、佐藤厚 (メールアドレス) <a href="mailto:satou@nur05.onmicrosoft.com">satou@nur05.onmicrosoft.com</a> <a href="mailto:touma@nur05.onmicrosoft.com">touma@nur05.onmicrosoft.com</a> <a href="mailto:matsuda.takashi@hotmail.co.jp">matsuda.takashi@hotmail.co.jp</a> (オフィスアワー) 佐藤(月～金、木曜日除く) 藤間(月～金、金曜日除く) 松田(来学時に対応)
【授業区分】専門分野(発生発語・嚥下障害学)	【授業コード】5-30-1150-0-1	
【開講時期】2年次 通年	【選択必修】必修	
【単位数】3単位	【コマ数】30コマ	
<p>【注意事項】</p> <p>(受講者に関わる情報・履修条件)</p> <p>発声発語に関する器官の解剖学、病理学の知識を有していること。中枢神経系の理解を深めて望むこと。</p> <p>(受講のルールに関わる情報・予備知識)</p> <p>資料、講義ノートを配布・使用するが、教科書をあらかじめ読んで予習しておくこと。</p>		
<p>【講義概要】</p> <p>(目的) 神経疾患によるコミュニケーション障害の中に、運動障害性構音障害 (dysarthria) を位置づける。機能性構音障害や器質性構音障害との共通点・相違点を理解して、dysarthria を定義づける。dysarthria の評価・診断・治療を行うために必要な、基本的知識を修得する。dysarthria の評価・診断と結果の解釈ができ、治療・訓練・指導に活用する。dysarthria の固有の問題に配慮した治療・訓練・指導の方法を修得する。dysarthria と嚥下障害の関連性について考察する。dysarthria や嚥下障害に対する、チーム医療について考察する。</p> <p>(方法) 目的に合わせて、体系的に講義を行う。始めに dysarthria の定義を学び、専門的な評価及び訓練をした後に、他の疾患の関連性について学ぶ。理論だけでなく、演習を充実させて臨床力を養いたい。</p>		
<p>【一般教育目標(GIO)】</p> <p>dysarthria を理解し、その障害をもった人に対する適切な評価・治療・指導が行えるようにする。</p>		
<p>【行動目標(SBO)】</p> <p>dysarthria の症状と原因疾患を結び付けて説明できる。dysarthria の症状の機序について説明できる。</p>		
<p>【教科書・リザーブドブック】</p> <p>西尾正輝・『ディサースリア臨床標準テキスト』医歯薬出版株式会社, 2007年. ¥4,200+税 藤田郁代監修・発声発語障害学(第2版) 医学書院, 2015年. ¥5,400円+税</p>		
<p>【参考書】</p> <p>廣瀬肇ほか・『言語聴覚士のための運動障害性構音障害学』医歯薬出版株式会社, 2002年. ¥5,000+税 必要に応じて授業内で指示する。</p>		
<p>【評価に関わる情報】</p> <p>(評価の基準・方法)</p> <p>成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。</p>		

平成 26～28 年度入学者用

担当者ごとに本講義終了時に試験を実施する。試験 70%、演習態度 30%の割合で総合評価を行う。									
【達成度評価】		試験	小テ スト	レポ ート	成 果 発 表	実 技	ポ ー ト フ ォ リ オ	そ の 他	合 計
総合評価割合		60	10			30			100 点
評 価 指 標	取り込む力・知識	30	5			10			
	思考・推論・創造の力	30	5			10			
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢					10			
【授業日程と内容】									
回数	講義内容	授業の運営 方法			学修課題(予習・復習)	時 間 (分)			
1	運動障害性構音障害の基礎① 概論	講義			予習・復習を必ず行うこと	30 分			
2	運動障害性構音障害の基礎② 神経学的基盤 1	講義			予習・復習を必ず行うこと	30 分			
3	運動障害性構音障害の基礎③ 神経学的基盤 2	講義			予習・復習を必ず行うこと	30 分			
4	運動障害性構音障害の基礎④ 発声発語器官の構造 1	講義			予習・復習を必ず行うこと	30 分			
5	運動障害性構音障害の基礎⑤ 発声発語器官の構造 2	講義			予習・復習を必ず行うこと	30 分			
6	運動障害性構音障害の障害像① 運動系の障害と構音障害の特徴	講義・演習			予習・復習を必ず行うこと	30 分			
7	運動障害性構音障害の障害像② 運動障害性構音障害のタイプと発話特徴 1	講義・演習			予習・復習を必ず行うこと	30 分			
8	運動障害性構音障害の障害像③ 運動障害性構音障害のタイプと発話特徴 2	講義・演習			予習・復習を必ず行うこと	30 分			
9	運動障害性構音障害の障害像④ 症例のとらえ方 1	演習			予習・復習を必ず行うこと	30 分			
10	運動障害性構音障害の障害像⑤ 症例のとらえ方 2	演習			予習・復習を必ず行うこと	30 分			
11	ディサースリアの検査と評価 AMSD①	講義と演習			必ず復習しまとめること	30 分			
12	ディサースリアの検査と評価 AMSD②	講義と演習			必ず復習しまとめること	30 分			
13	ディサースリアの検査と評価 AMSD③	講義と演習			必ず復習しまとめること	30 分			

平成 26～28 年度入学者用

14	ディサースリアの検査と評価 AMSD④	講義と演習	必ず復習しまとめること	30分
15	ディサースリアの検査と評価 AMSD⑤	講義と演習	必ず復習しまとめること	30分
16	ディサースリアの検査と評価 AMSD⑥	講義と演習	必ず復習しまとめること	30分
17	ディサースリアの検査と評価 AMSD⑦	講義と演習	必ず復習しまとめること	30分
18	評価と解釈①	講義と演習	必ず復習をすること	30分
19	評価と解釈②	講義と演習	必ず復習をすること	30分
20	評価と解釈③	講義と演習	必ず復習をすること	30分
21	ディサースリアの治療概論①	講義	必ず復習をすること	30分
22	ディサースリアの治療概論②	講義	必ず復習をすること	30分
23	ディサースリアの治療概論③	講義	必ず復習をすること	30分
24	呼吸機能へのアプローチ	講義・演習	必ず復習をすること	30分
25	発声機能へのアプローチ	講義・演習	必ず復習をすること	30分
26	鼻咽腔閉鎖機能	講義	必ず復習をすること	30分
27	口腔構音機能①	講義・演習	必ず復習をすること	30分
28	口腔構音機能②	講義・演習	必ず復習をすること	30分
29	発話速度の調節法	講義・演習	必ず復習をすること	30分
30	拡大・代替コミュニケーション (AAC) アプローチ	講義・演習	必ず復習をすること	30分

※授業日・教室は随時学生ポータルサイトにて配信します。

※ここに示す学修課題の時間は、必要とする授業外の学修時間(授業時間の3倍)に含むべき時間を示します。